

ユアサポAI 詳細調査

1. ツールの概要

開発元・対象：ユアサポAIは、株式会社ユアサポ（YourSup, Inc.）が開発した特許出願書類作成支援ツールです¹。特許事務所や企業の知的財産部門を主な対象とし、経験者不足や明細書品質のばらつきといった課題を解決することを狙いとしています²。2019年設立の同社は2025年4月に本ツールを正式リリースし、既に国内の複数特許事務所で行き導入されています¹。

主な機能・特徴：Microsoft Wordの専用アドインとして提供される点が大きな特徴です³。利用者は普段使い慣れたWord上でAI機能呼び出せるため、新たなソフトの習得不要で既存業務にシームレスに導入できます³。生成AI（大規模言語モデル）を活用し、**発明のポイントなどを入力すると特許請求の範囲（クレーム）案や明細書ドラフトを自動生成**します⁴。一般的な生成AIツールでは「無難な文章」になりがちですが、ユアサポAIでは**事務所・企業ごとの過去明細書データを事前学習**させることで、“自分が書いたような”文体・用語の高精度なドラフトを実現しています⁵。その結果、ドラフト後の修正負荷を最小限に抑えることが可能です⁵。また**機密情報保護**にも配慮されており、利用中にAIへ送信したデータはモデル学習に一切使用されず、生成文書や入力テキストはユーザーPCのローカル上のみ保存されます⁶。このローカル保存設計により、クラウド上に履歴が残らず情報漏えいリスクを極小化しています⁶。

導入・用途：ユアサポAIを使うことで、特許明細書の初稿作成にかかる時間を大幅短縮でき（海外調査で平均約45%削減との報告に基づき「約半分」に短縮とうたわれています）、発明提案から明細書作成までの知財業務効率を向上します⁷⁸。特許出願中の独自技術も盛り込み、継続利用で精度が向上する次世代の知財文書作成プラットフォームを目指しています⁹。既にA社知財部員やB社R&Dマネージャーなどからは「発明者のアイデアを明確に言語化でき、特許事務所とのコミュニケーションが円滑になった」「品質の均一化で社内承認プロセスがスムーズになった」等の声が寄せられています¹⁰。正式リリース時には先着10社限定で2週間の無料トライアル（過去データによる事前AI学習付き）キャンペーンも実施されました¹¹¹²。価格体系はエンタープライズ向けの個別見積もりとなっており、公表価格はありません¹³。

2. 2025年 知財・情報フェア&カンファレンスでの出展内容

出展概要：ユアサポAIは「2025知財・情報フェア&カンファレンス」（第34回）に出展し、東京ビッグサイト西ホールのブース番号W3-36で製品展示を行いました¹⁴。ブースでは**製品の実演デモ**を交えながら、Word統合による手軽な操作性や高精度なAIドラフト生成、万全のセキュリティ体制について詳しく紹介しました¹⁵。実際の明細書生成プロセスをその場で再現し、来場者は操作画面や生成結果を直接確認することができました。また、**既存Word環境ですぐ使えることや自社データでAIモデルを調整できる点**をアピールし、多くの知財実務者の関心を集めたようです。¹⁶ 来場者には製品パンフレットなどの資料も配布され、ブース担当者との個別相談や問い合わせ対応も実施されました（※公式Webには資料請求フォームも用意¹⁷）。

プレゼンテーション：会中には出展社によるプレゼンテーションも行われ、ユアサポの森下将宏CEOが登場しました。プレゼンタイトルは「**品質と生産性を両立する知財文書作成の新スタンダード — 自社データで鍛えるAI**」で、組織固有のデータ学習によって明細書作成の質と効率を両立できるというユアサポAIのコンセプトが紹介されました。具体的には、過去の明細書から学習したAIが各段落を自動生成し、高品質なドラフトを短時間で得る方法や¹⁸、クラウド非依存のローカルAIによる機密保持などについて説明がありました¹⁸¹⁹。質疑応答でも来場者から活発な質問が寄せられ、**実務への適用事例や導入手順、AIが学習する範囲**

などが議論されたようです。デモ動画の上映や実際の操作画面を用いた解説も行われ、聴講者はユアサポAIの有用性を具体的にイメージできたと報告されています（デモの様子は公式YouTubeにも公開）²⁰。

3. ユアサポAIの評判・評価

業界での注目度：ユアサポAIはリリース直後から知財業界で大きな話題を呼んでおり、その知名度と期待値は高いです²¹。日経クロステックやBizアイデア等のメディア記事でも「特許出願書類作成を生成AIで効率化するWordアドイン型ツールの登場」といった見出しで紹介され、特許実務の生産性向上をもたらす切り札として期待されています²¹。特に「大手特許事務所出身の起業家が手掛けるサービス」である点が専門性への信頼感につながっており、ニュースリリースも含めポジティブに報じられました²²。

ユーザーの声：実際に先行導入したユーザー企業・事務所からは概ね好評の声が上がっています。例えば「Wordベースなので導入障壁が低い」「AIに自社の言葉遣いを学習させられるのが画期的」といった評価が聞かれ、現場の知財担当者や弁理士からも歓迎されています²³。公式サイトでの導入企業コメントでも「発明者のアイデアを明確に言語化できた」「社内承認プロセスが格段にスムーズになった」等の効果が紹介されています¹⁰。一方で、競合サービスとの比較では「生成AI自体の文章生成能力は各社共通なので差別化の鍵は学習データと使い勝手」という指摘もあり、ユアサポAIの強みである**カスタム学習**と**Word統合**がどれだけ成果につながるかに注目が集まっています²⁴。

導入先での評価：ユアサポAIは正式リリース前から国内数社の特許事務所で実証導入されており、既にそれらの事務所では社内テストを経て実運用に移行しています²⁵。具体的な導入企業名は公開されていませんが、「国内複数の特許事務所で導入済み」とプレスリリースに明記されていることから業界内での関心の高さがうかがえます²⁵。導入企業の多くは無料トライアルを経て本格導入に至っており、「費用対効果に納得した上で本番利用に移行するケースが多い」ようです²⁶。価格が非公開な点について一部に「高価ではないか」との声もありましたが、実際には**コストに見合う効果**が得られているとの評価が多いとされています²⁶。

総合的評価：以上のように、ユアサポAIは「知財業務特化の生成AIツールの新星」として概ね好評を博しており、その実力と効果は今後さらに多くの導入事例を通じて検証・実証されていく段階と言えます²⁷。特許実務へのAI活用が盛り上がる中、ユアサポAIは高度な専門性と現場ニーズを押さえたソリューションとして有望視されています。一方で、**生成AIはあくまで補助で最終チェックは人間が不可欠**という点は他サービス同様に強調されており²⁸、「AIが書いたドラフトを人間が精査して完成させる」という運用が妥当との認識でユーザーにも受け入れられています²⁹³⁰。このように、人の専門知識とAIの効率化能力を融合させる形で、知財業務の生産性向上に貢献するツールとの評価が定着しつつあります。

4. 類似ツールとの比較

ユアサポAIと類似する知財・特許業務支援AIツールとしては、**TOKKYO.AI (特許.ai)**、**AI Samurai**、**appia-engine (アッピーエンジン)**などが挙げられます。それぞれ機能や提供形態に特徴があり、ユアサポAIと以下の観点で比較できます（※2025年時点）³¹。

- **機能面：**ユアサポAIがWord上での明細書ドラフト自動生成に特化しているのに対し、TOKKYO.AIは**特許検索+明細書生成を統合したオールインワンのプラットフォーム**です³²。AI Samuraiは**先行技術調査から明細書作成まで一貫支援**することを狙ったツール群で、発明ヒアリングを**対話形式AI**で行いドラフト生成する点が特徴です³³。appia-engineは**特許事務所向けクラウドサービス**で、案件管理システムと明細書ドラフト作成機能を統合しています³⁴。いずれも生成AI（GPT系）を搭載してドラフトを自動生成する点は共通しますが、ユアサポAIのみ各ユーザー固有の文書データを学習させる**カスタムAI**となっており、文章の専門性・一貫性で差別化を図っています⁵。

- 価格**：ユアサポAIは上述の通り**エンタープライズ向けの個別見積もり**（料金非公開）で提供されます¹³。一方、他のツールは比較的明確な価格プランがあります。TOKKYO.AIは**基本機能無料**で利用でき、高度機能やプライベート環境利用には**1IDあたり月額約1万5千円**程度の有料プランが案内されています³⁵。AI Samuraiは製品形態によって異なりますが、新サービス「AI Samurai ZERO」はトリアル経て**サブスクリプション型**に移行しており、「幅広い企業に導入しやすい低価格」を目指す方針とされています³⁶。appia-engineは**フリーミアムモデル**で、無料プラン（登録案件月3件まで）と、有料のプロプラン（月額約25,000円~/ユーザー）が用意されています³⁷。
- 使いやすさ・連携性**：ユアサポAIはWordアドイン型のため**既存のWord操作に馴染んだUI**で利用できる、導入のハードルが低い点が評価されています²³。AI Samuraiは**Q&A対話形式のインターフェース**で発明内容を引き出し、自動生成につなげる仕組みのため、専門知識のない発明者でも直感的に使えるよう配慮されています³⁸。TOKKYO.AIはWeb上で完結するオールインワンツールで、ドラフト生成後に**ワンクリックで先行特許を自動検索**してくれるなど操作ステップの簡略化が図られています³⁹。appia-engineは**弁理士が開発に携わった実務目線のUI**が強みで、ブラウザ上で案件情報とドラフトを一体管理できるためチーム内での情報共有も容易です⁴⁰。ただしユアサポAIのようにMicrosoft Officeと直接連携する形ではないため、既存の社内文書管理との統合という点では各社工夫の余地があります。
- 出力精度・AI性能**：各ツールともOpenAI系の生成モデルを用いており、基本的な文章生成性能に大きな差はないと指摘されています²⁴。そのため、**どれだけユーザーの専門用語や文体を反映できるか**や、**生成後の修正工数がどの程度か**が精度面での比較ポイントになります。ユアサポAIは前述のようにユーザーデータ学習でスタイルを反映し高精度化を図っています⁵。TOKKYO.AIはドラフト直後に関連特許を提示することで**抜け漏れ防止やブラッシュアップ**に繋げており³⁹、AI Samuraiも独自AIとGPT-4の組合せで**発明の本質を引き出す質問機能**を備えるなどドラフトの質向上を狙っています⁴¹。appia-engineは現時点で明細書・クレーム初稿生成が中心ですが、2024年内に**ドラフト内容のチェック機能**（例えば用語統一や体裁チェック等）の実装も予定されており、品質管理面の強化を図っています（発表情報）⁴²。なお**いずれのサービスも、生成されたドラフトはあくまで下書きで最終的な内容確認・修正は専門家が行うことを前提**としています²⁸。完全自動で特許明細書を仕上げられる段階ではなく、人間の知見とのハイブリッドで信頼性と効率化を両立させるアプローチは各ツール共通のスタンスです。

比較表：主要AI知財支援ツール（ユアサポAIと競合）：

ツール名	主な特徴・機能	価格モデル	使いやすさ・連携性・精度など
ユアサポAI	Wordアドイン型。過去の 明細書データから文体・用語を学習 し、高品質な特許請求項・明細書ドラフトを自動生成 ⁵ 。機密情報はローカル保存で安全 ⁶ 。	エンタープライズ向けカスタム提供（価格非公開）。正式リリース時に先着10社へ2週間の無料トリアル実施 ¹³ 。	Word上で操作完結 する手軽さが好評 ²³ 。自社データで調整したモデルにより「 自分が書いたような 」ドラフトが得られるため、修正工数の削減が期待される ⁵ 。

ツール名	主な特徴・機能	価格モデル	使いやすさ・連携性・精度など
TOKKYO.AI	特許調査と明細書生成が一体化したオールインワン特許プラットフォーム。ChatGPT APIを活用し、シンプルな入力から各項目構成に沿った明細書ドラフトを自動生成 ³² 。ドラフト後に関連特許の自動検索・表示機能も搭載 ³⁹ 。	基本機能は無料提供。高度機能利用やプライベート環境版は ユーザーあたり月額約15,000円 のプランを案内 ³⁵ 。中小企業・個人でも試しやすい価格設定。	Webブラウザ上で完結 。ドラフト生成と先行特許検索をワンクリックで実行できるため手順が少なく直感的。日本語特化のUIで専門知識がなくても利用しやすい。生成直後に関連文献が提示されるため 抜け漏れのないドラフト検討 が可能 ³⁹ 。
AI Samurai	日本発の知財AIツール群。 先行技術調査から明細書作成まで一貫支援 を目指す。大学研究のAI技術+GPT-4を組み合わせ、発明内容に対話形式で引き出しドラフトを自動生成する機能が特徴 ⁴¹ 。従来の特許調査AI（評価AI）に加え、出願書類生成に対応。	製品ごと・利用形態で異なるが、最新の生成AI搭載サービス「AI Samurai ZERO」は 期間限定無料トライアル を経てサブスク提供に移行（低価格方針） ³⁶ 。具体価格はユーザー数等により要相談（数万円/月～想定） ⁴³ 。教育機関向け無償提供の実績もあり。	対話型UI で発明者が質問に答える形でドラフト作成が進むため、非専門家にも使いやすい。従来からの先行技術マッチング機能も統合されており、 新規性チェックとドラフト生成を一括サポート 。ただし生成文については「大幅な手直しが必要な場合もある」と指摘されており、現状では AIは補助的役割 との見方が一般的 ⁴⁴ 。
appia-engine	特許事務所向けクラウドサービス。 明細書ドラフト作成機能と案件管理システムを統合 し、案件ごとに発明情報やドラフトを一元管理可能 ³⁴ 。GPT-4搭載で発明のポイント入力から明細書案（請求項含む）を自動生成し、進捗管理や共同作業も円滑化。弁理士が開発に参画し実務に即した機能UI。	フリーミアム型 （無料版は月3件まで作成可）。 プロ版はユーザーあたり月額25,000円程度 から ³⁷ 。低コストで試用後、必要に応じ有料プラン移行できる柔軟な料金体系。	クラウド上の専用画面 で操作。専門知識がなくてもフォームに沿って入力でき、 弁理士目線で使いやすいUI を備える ⁴⁰ 。ブラウザさえあれば利用できる手軽さがある反面、Word等との直接連携はない。現在はドラフト初稿生成が中心だが、 2024年内にドラフト内容のチェック機能 （用語統一や体裁検証など）の実装を予定するなど品質向上にも注力 ⁴² 。

※いずれのツールも、最終的な特許明細書の仕上げには人間専門家の確認・修正が不可欠であり²⁸、AIはあくまで補助的役割という点で共通しています。このため「AI下書き+人間のチェック」というワークフローで法的信頼性を確保しつつ大幅な効率化を図るというアプローチが、知財実務におけるAI活用の現状といえます²⁹³⁰。各社のサービスはそれぞれ検索機能の有無やUIの違い、導入形態（クラウド/オンプレ/アドイン）などで特色を打ち出していますが、**ユアサポAIは「ユーザー企業ごとに育つAI」というユニークさ**で市場に新風をもたらしていると言えるでしょう²¹⁴⁵。今後も各ツール間で機能強化が進み、例えばユアサポAIが計画している**多言語対応や図面・先行技術文献参照機能**⁹などが実現すれば、さらなる差別化要因となっていくと予想されます。各社ツールの動向により、知財業務のDXがどのように深化していくか引き続き注目されます。

1 2 6 9 11 特許出願書類作成を生成AIで効率化、Wordアドイン『ユアサポAI』を正式リリース | 株式会社ユアサポのプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000049990.html>

3 4 5 12 13 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 43 44 45

yorozuipsc.com

<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/19bc4f1da0c0e2e3d76c.pdf>

7 8 10 ユアサポAI | 生成AIで特許出願書類作成の時間を大幅削減 | 請求項・明細書の生成も簡単に

<https://yoursup.co.jp/>

14 15 17 知財・情報フェア&コンファレンス

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=118

16 知財情報フェア2025で感じたこと | AIの熱狂とIPランドスケープの静寂 | 塩谷綱正@イーパテント・アクティスー知財情報を組織の力に®

<https://note.com/tshioya/n/n693af7673e97>

18 19 42 出展者プレゼンテーション 知財・情報フェア&コンファレンス2025

https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/08/pifc2025presen_v5.pdf

20 『ユアサポAI』 請求項&明細書作成 デモ - YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=bketjt0TOT4>